



TITLE:

JPCOARの活動と大学図書館の可能性

AUTHOR(S):

山中, 節子; 西岡, 千文

CITATION:

山中, 節子 ...[et al]. JPCOARの活動と大学図書館の可能性. JAPAN OPEN SCIENCE SUMMIT 2019 2019

ISSUE DATE:

2019-05-27

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/241677>

RIGHT:

発行元の許可を得て掲載しています。

JPCOARの活動と大学図書館の可能性

山中 節子（京都大学附属図書館学術支援課）
西岡 千文（京都大学附属図書館研究開発室）

Japan Open Science Summit 2019

2019年5月27日（月）「オープンサイエンス政策と
研究データ利活用のベストプラクティス」



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



JPCOARの概要と 研究データに関する活動

JPCOAR

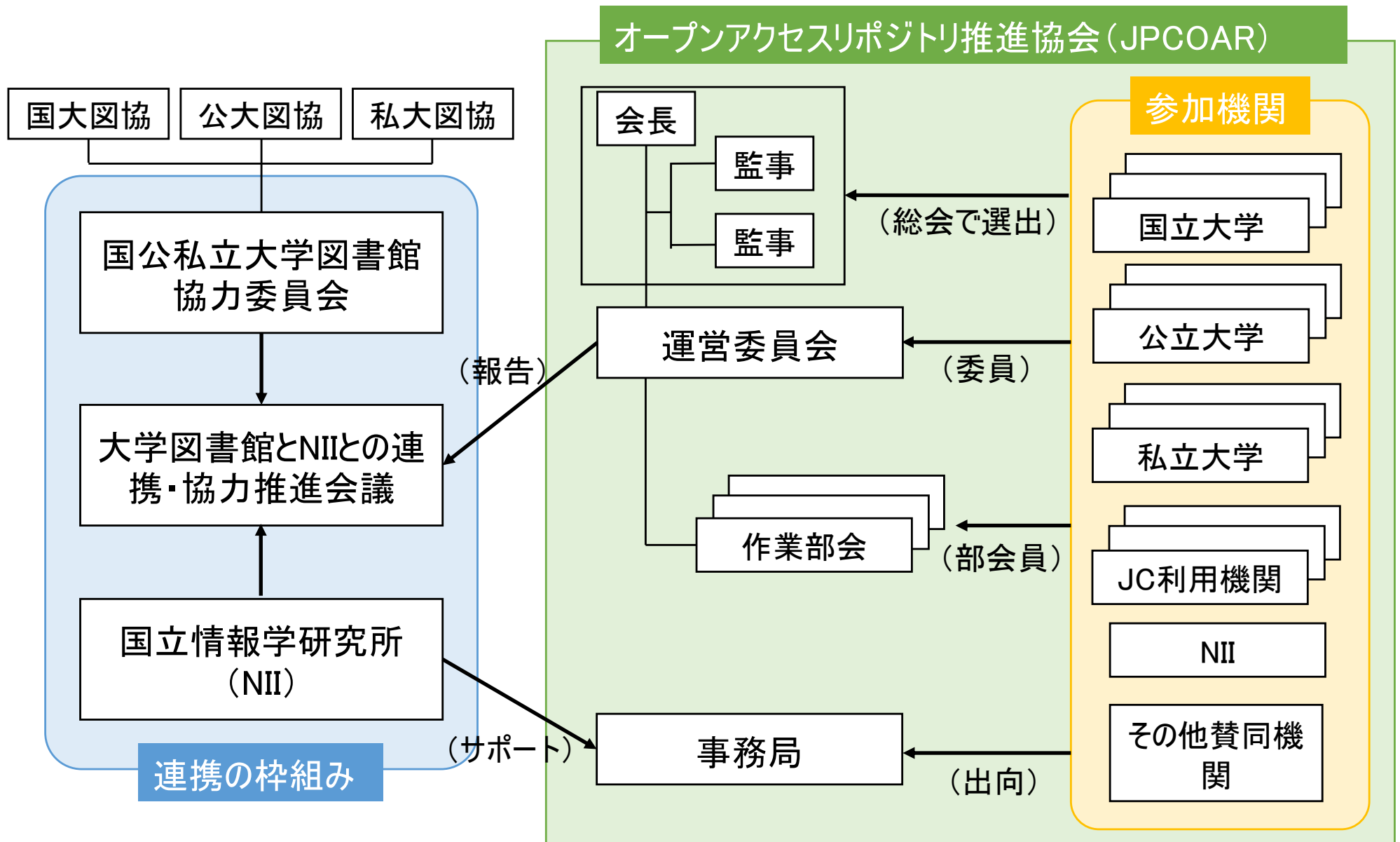
JPCOAR = オープンアクセスリポジトリ推進協会

リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資することを目的として、2016年7月に設立

重点目標

- オープンサイエンスを含む学術情報流通の改善
- リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用
- リポジトリ公開コンテンツのさらなる充実
- 担当者の人材育成のための研修活動
- 国際的な取組みに対する積極的連携

大学図書館とJPCOAR

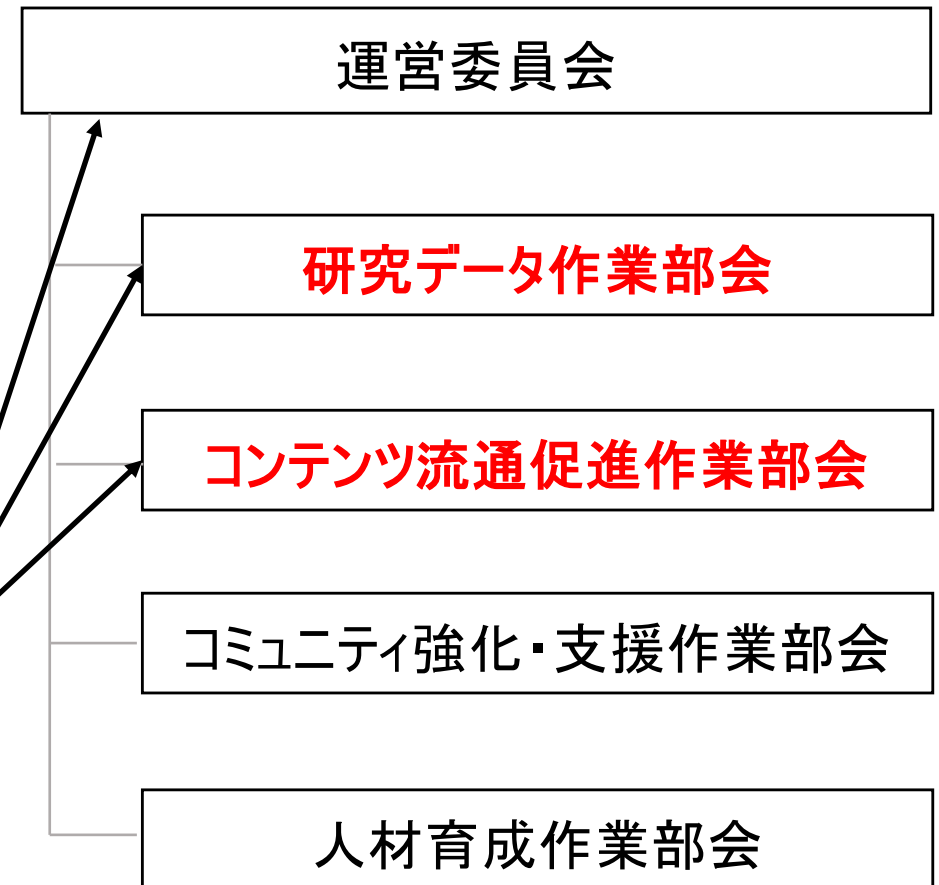


JPCOAR作業部会

2018年度以前



2019年度以降

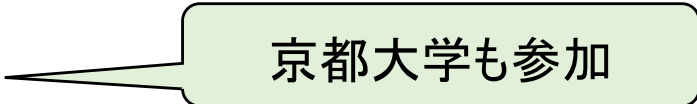


研究データTFの活動(2018年度)

- 研究データ管理に関する新教材の開発と普及
「研究データ管理サービスの設計と実践」
- 研究データ管理に関するポータルサイトの検討
 - 国外の大学、国立機関によるサイトの事例調査
 - 事例調査を新教材に反映
- 異種コミュニティとの連携
 - RA協議会
 - 図書館総合展
 - 大学ICT推進協議会

研究データTFによる新教材

- 第一弾教材「オープンサイエンス時代の研究データ管理」
 - JMOOC/gaccoで開講（2017年11月～2018年1月）
 - 2,305名の受講者を得て、そのうち25%が修了
 - 基礎的内容が中心で、研究データに携わるあらゆる教職員が対象
- 第二弾教材（新教材）「研究データ管理サービスの設計と実践」
 - 研究支援職員（図書館職員、URA、技術スタッフ等）を対象
 - 研究プロセスに沿って、具体的なサービスの設計と実践について学習
 - 試用プロジェクト（2018年8～10月）



京都大学も参加

京都大学図書館機構の 研究データへの取り組み

これまでの歩み

京都大学図書館機構の 学術情報オープン化に関するこれまでの取り組み

- 1998年 電子図書館システム運用開始（古典籍等の貴重書）
- 2006年 学術情報リポジトリ運用開始
- 2015年 京都大学オープンアクセス方針採択
- 2016年 京都大学オープンアクセス推進事業
- 2018年 図書館協議会オープンアクセス特別委員会発足

オープンアクセス推進事業

京都大学重点戦略アクションプラン(2016～2021年度)

- オープンアクセス推進のための学術論文等の研究成果公開の推進
→ 京都大学学術情報リポジトリKURENAI
- 貴重資料等の一次資料のデジタルアーカイブ化による人文社会科学系研究基盤の強化
→ 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ
- コンテンツの国際展開
- **オープンサイエンスや研究公正を踏まえた研究情報の適切な管理とアクセスのための人材育成**
→ **研究データも対象としたオープンサイエンスへの展開**
- 専門的有識者をコアにしたプロジェクト体制と研究支援職員の組織的育成

世界リポジトリランキング
機関リポジトリ部門第4位
(2019年1月)

IIIF対応で1万件以上の資料、
100万件以上の画像を公開

海外での調査、学生向けセミナーの開催、オンライン教材試用プロジェクトに参加

JPCOAR新教材と図書館機構の活動

オープンアクセス推進事業プロジェクトメンバーを中心とした20名が、JPCOARによる新教材「研究データ管理サービスの設計と実践」の試用プロジェクトに参加

新教材の内容を踏まえて…

- 「研究データの公開支援（試行）」の公開
- 工学研究科オープンデータ検討WG

研究データの公開支援（試行）

研究データの公開について教員から問い合わせ

「論文誌がエビデンスデータの公開を求めているが、どこで公開すればよいか？」

研究データの公開に関する情報を体系的に提供するため、「
研究データの公開支援（試行）」を2019年2月に公開

研究データ管理とは？

研究データの公開方法

- データリポジトリの検索方法・選択方法
- 汎用リポジトリ

研究プロセスと研究データ管理

- 研究前：研究データ管理計画の提出
- 研究中：研究成果の根拠となる研究データの10年間の保存義務
- 研究後：研究データの公開

研究データの公開支援（試

> 総合案内

> 公開支援サービス

> 研究データマネジメントとは

> 研究プロセスとデータマネジメント

> 関連情報

京都大学図書館機構 > 研究データの公開支援（試行） > 研究データ公開支援 - 総合案内

総合案内

図書館機構では、京都大学学術情報リポジトリ「[KURENAI](#)」により、学術論文の[オープンアクセス](#)を推進しています。

このたび、[アカデミックデータ・イノベーションユニット](#)の協力のもと、学術論文に紐づく研究データの公開への取り組みを開始しました。当サイトでは、試行的に、研究データの公開支援を目的とした情報を提供します。今後も随時更新していきます。

提供情報

- [公開支援サービス](#)
- [研究データマネジメントとは](#)
- [研究プロセスとデータマネジメント](#)
- [関連情報](#)

※当サイトは、教材「[研究データ管理サービスの設計と実践](#)」（[JPCOAR 研究データタスクフォース](#)）を参考にさせていただきました。

お問い合わせ

|| 研究データの公開

附属図書館 学術支援掛

repository [at] mail2.adm.kyoto-u.ac.jp （[at] は@に書き換えてください）

|| 研究データマネジメント全般

アカデミックデータ・イノベーションユニット幹事会

kudzu-board [at] mail2.adm.kyoto-u.ac.jp （[at] は@に書き換えてください）

[この記事の1行目に飛ぶ](#)

研究データの公開支援（試行）

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/researchdata/1380691>

工学研究科オープンデータ検討WG

- 桂図書館(2019年度末開館予定)での研究支援
 - ライティング支援、オープンアクセス支援、アーカイブ支援など、研究を進め、発表し、蓄積するという研究活動サイクルの各場面で必要とされる支援サービスを推進
→「研究データの保存・公開」の支援も対象
 - 理工系分野を対象
- JPCOARによる新教材の内容も踏まえて、提供するサービスや工学研究科のオープンデータに関するポリシーについて検討
 - 京都大学では、個別の研究グループ単位では、すでにデータリポジトリを運営している先行事例があるが、研究科・学部等の部局単位で方針を検討するのは初めての事例

京都大学図書館機構

- 次期JAIRO Cloud実証実験への参加
 - 工学研究科オープンデータ検討WGからの展開
 - JPCOARスキーマ対応やデータリポジトリの検討等の課題整理
 - 職員は今まで研究データをあまり扱ったことがないので、研究データ本体に関する理解を深める
 - 研究データ登録・公開までの流れについて具体的なイメージを掴む
 - データをリポジトリに登録したことのない研究者に、研究データのオープン化のモデルケースを示す

今後の展開

今後の展開

JPCOAR研究データ作業部会

(「オープンアクセスリポジトリ戦略2019～2021」より)

「オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う」

研究データ対応を見据えた国内機関リポジトリの役割・機能要件の策定ならびに研究データを公開する基盤に関する整備

国内外の関連機関と連携し、研究データの情報流通促進及び評価に関する活動の実施

研究データの管理・共有・公開を促進するため、研究支援に携わる職員の意識、スキルの向上を図り、会員機関における活動を支援

京都大学図書館機構

(「京都大学重点戦略アクションプラン中間報告オープンアクセス推進事業(2016-2018)」の「研究情報の適切な管理と人材育成・後半期の課題」より抜粋)

オープンサイエンスのためのデータ基盤として、リポジトリの整備活用について検討・実装

研究データの管理・オープン化を含めたオープンサイエンスと研究公正に関する素養をより一層学生に周知する活動

オープンサイエンス支援を行う人材育成の充実

ありがとうございました